

〔団体の概要〕 (NGO/NPO用)

団体名	汗 ^{あせ} 基金運動 推進本部		
所在地	〒564-0004 大阪府吹田市原町3-41-13 TEL: 06-6388-3428 FAX: E-mail:		
ホームページ			
設立年月	1986年7月17日		
代表者	南部久子(会長)	担当者	織田幸次(事務局長)
組 織	スタッフ 14名(内 専従 1名)		事務所 あり
	会員制度 (あり)	約 100名	
設立の経緯	①1975～1980年: 宮城まり子氏の慈善運動に感動支援した。 ②1981～1985年: 織田幸次は運動不足の解消と狭心症克服のため19年間のマイカー生活と訣別、歩けることと健康の幸せを分かちあうことを組み合わせた「汗^{あせ}基金歩行」を創案、5年間ひとりで試行した。③1986年7月17日: 会社の定年を機に、「汗基金歩行」を「汗基金運動」と改名、ライフワークとして広く呼び掛けることを決意。その成否を日本列島徒歩縦断(北海道、宗谷岬→鹿児島県、佐多岬: 期限99日)に賭け、宗谷岬をスタートした。縦断成功後その日を運動発足の日とした。 ※(いい汗26号-1～3頁) 参照		
団体の目的	科学技術の進歩は人間生活に飛躍的な利便をもたらしたが、一方では、環境問題(地球温暖化や大気汚染)やエネルギー資源の枯渇・交通問題(渋滞や死傷者の激増)を惹起し、更には人口爆発も加わって人類の存続を危うくするような深刻な事態を招来しつつあります。こうした現況にたいし「汗基金運動」が少しでも事態の進行を食い止め、更には、頻発するテロ等紛争の解決策の一つとして、貧困解消のお役に立つことを願って設立したものであります。 運動のもう一つの目的は、戦後日本の繁栄を支えた日本人のバイタリティーや青少年の基礎体力の低下が心配されておりますが(旧文部省調査)、その復活を願ったものであります。 ※(いい汗30号-1頁: 汗基金運動の基本理念) 参照 ※(いい汗20号-1～4頁: 子供が危ない) 参照		
団体の活動プロフィール	参加者は日常生活では「汗道^{あせどう}かんどう級位」を念頭に努めて歩くことを心掛け、歩いたらその距離を「汗手帳」に記録集計し、年に1回程度自分で決めたチャリティー・レート(1～10円)をかけ、日本赤十字社やユニセフの「汗基金口座」に直接義援金として拠出致します。 又、別途に会が企画した登山、ハイキング等の例会や東海自然歩道完歩、西国33ヶ所順拝等のシリーズにも参加しながら(年間16回以上)、会員同志の交流を深めこの運動の大切さを学んでおります。 ※(いい汗20号-2頁～3頁最下段) 参照 ※(いい汗29号-9頁～12頁) 参照 ※(いい汗30号-13～14頁及び1頁最下段) 参照		
財 政	活動事業費 (平成13年度)	一般会計 収入合計: ¥284,204 □ 支出合計: ¥266,061 □ ※(いい汗30号-15頁、会計報告) 参照	

団体・企業名	汗 ^{あせ} 基金運動推進本部	担当者名：織田幸次
--------	--------------------------	-----------

〔政策提言の内容〕

政策のテーマ	健康と生き甲斐を追求しながら、環境問題（地球温暖化・大気汚染）・資源枯渇・交通問題（渋滞・死傷者）に役立ち、更には、人道援助にも貢献する。		
政策の分野	番号	①③ ②④	ライフスタイルの見直し、省エネルギー、地球温暖化防止 大気汚染防止（徒歩励行、公共交通機関利用）、人道援助
政策の手段	番号	③ ④	汗道 ^{あせみち} かんどう級位認定制度（柔、剣道のような）の推進。ウォーキングやハイキング等の例会を催行して啓発に努める。 （※いい汗－30号、1頁最下段及び13～14頁参照）

①政策の目的

科学技術の進歩は人間生活に飛躍的な利便をもたらしたが、一方では、交通機関の発達や大量生産、大量消費、大量廃棄の商業思想や人口爆発も加わって、環境問題（地球温暖化や大気汚染）やエネルギー資源の枯渇、交通問題（渋滞・死傷者の激増）等を惹起し、地球の存続に深刻な影響を招来しつつあります。世界の権威ある科学者や有識者はこのままでは、近い将来地球は破滅すると言って警鐘を乱打しています。遅くともよい。貧しくても良い。自然が豊かで平和な地球の存続を願って本案を提起しました。まずは環境、資源、保健、人道援助で世界に愛される日本を目指したい。

②提言を行うこととなった背景および現状の問題点

49才のとき狭心症で倒れ、始めてそれまでの運動軽視とマイカー生活を反省、歩くことを決意した。以来27年弱（始めの5年間は一人で試行錯誤）、ひたすら歩きに徹した生活を送ったお蔭で、完全に狭心症を克服、健康を取り戻すことができた。

16年前、この経験を活かし、更には健康の幸せを人道援助にも役立てればと思って「汗基金運動」と命名、定年後のライフワークとして始めた。これまで殆ど口コミと機関紙のみで参加者を募り運営にあたったが、成果には限界があり、大きく育てるには組織やマスコミの力が是非必要であると痛感している。

③政策の概要

日常生活の中では、自分自身の健康のみならず、環境を守り、資源を節約し、交通災害から身を守るため努めて歩き、同時に、健康に歩ける幸せを分かちあおうという運動で、具体的には、歩いた距離を「汗手帳」に記録集計しておき、年に1回程度、その距離に自分が決めたチャリティー・レート（1～10円/km）を掛け、直接、日本赤十字社（大阪府支部／現在）やユニセフ等に開設した「汗基金口座」に振り込み、内外を問わず貧困・災害・飢餓・紛争で苦しんでいる人達を援助する運動です。

④政策の実施方法と全体の仕組み（フローチャート）

汗基金運動（1石5鳥：健康・環境・資源・交通・人道援助）

提言一．歩く習慣を取り戻そう
提言一．幸せを分かちあおう

- 1 イ．通勤・通学・買い物等の日常生活には、健康維持・環境保全・資源節約の観点から努めて歩く。
ロ．散歩・ハイキング・登山・ジョギング等で基礎体力の維持向上に努める。
※ 「汗道級位認定制度」を設け歩く習慣を助成する。別途、例会（年間約16回以上）等も企画し、会員同志の交流を深め、啓蒙に努める。



- 2 歩いたり、走ったりした距離を「汗手帳」に記録、集計しておく。



- 3 集計した距離にたいし、自分で決めたチャリティー・レート：大人＝1～10円/km、子ども（20才未満）＝1円/kmを掛け、年1回程度にまとめ、日本赤十字社又はユニセフ等の「汗基金口座」に拠出する。チャリティー・レートを2本立てにしたのは2002年5月5日、貴社の社説を読み、未来の担い手である子供達こそ我々大人以上に地球の行く末を心配し、自然や平和の大切さを願って賛同すると信じたからである。（但し汗道級位の認定は大人は領収書の金額に1/10を掛けたものを踏破距離とし、子どもはそのままを踏破距離として認定するものとする）※いい汗30号-14頁、上段の「認定の項」参照

↓※汗道級位認定申請書（30号別紙）参考

- 4 「汗基金」の援助対象：イ、飢え、貧困、紛争に苦しむ人達への援助。ロ、地震、洪水等災害地への緊急援助。ハ、人道上必要且つ有益と思われる援助。

↓

- 5 汗基金運動推進本部では参加者からの申請にもとずいて、歩いた距離を審査の上（日本赤十字社やユニセフからの汗基金領収報告書参照）「汗道^{かんどう}級位認定証」を授与奨励する。※いい汗-30号-1頁下段及び13・14頁参照

〔将来構想〕

↓

- 6 運動の普及、拡大に従って都道府県単位、更には市町村単位に集約、国民の体力・健康の維持向上や寝たきり老人の削減に資すると共に、「環境・省資源・人道援助」で世界の範となり世界平和の達成に貢献する。

〔最終目的〕

↓

- 7 日本で「汗基金運動」が「健康・環境・資源・交通・人道援助」に役立つことが証明できたら、国連に呼び掛け、例えば「汗^{あせ}りんびく」（日本発）と言った地球あげての環境・平和運動に拡大、指導的役割を果たす。

- ⑤政策の実施主体＝汗基金運動推進本部
（汗基金運動事務局）
協力主体＝①日本赤十字社大阪府支部、
②財団法人日本ユニセフ協会
その他（新聞社、慈善団体）

●「汗基金」の流れは透明性が第一。
参加者からの拠出金は直接、協力主体
①②に送り、後日、当本部が報告を受
けた後、会報に掲載、再チェックする
※（いい汗-30号2～3頁下段）参照

⑥政策の実施により期待される効果

1. 健康－イ、生活習慣病の予防
－ロ、寝たきり老人を減らす
－ハ、大人が歩く手本を示す⇒子供たちの基礎体力の回復に繋がる
2. 環境－ニ、地球温暖化防止（2008～12年平均の温室効果ガス排出量を1990年比較で、6%削減〔京都議定書〕）の国際公約の達成に寄与する。⇒異常気象、食料危機の防止
－ホ、大気汚染（NOx・浮遊微粒子等）の削減⇒国民の健康保持
3. 資源－ヘ、枯渇が心配されるエネルギー資源の節約
4. 交通－ト、死傷者（年間100万人を超す）の削減
－チ、交通渋滞（年間56億時間＝26兆円）の削減
－リ、渋滞がもたらす燃費ロス削減
－ヌ、無駄な車道建設費等、公共事業費の抑制
5. 貢献－ル、日本赤十字社やユニセフを介し、飢餓・災害・紛争で苦しむ人達を援助⇒外国との友好、信頼に繋がる
オ、国土・食料・資源小国、日本の安全保障にもなる
ワ、戦争、テロの根源、貧困の解消に役立つ

※ 汗基金実績＝9,937,773円／（いい汗30号-2、3頁下段参照）

- ⑦パンフレット等添付資料名：機関紙「い汗」-20・26・29・30号・汗手帳